

Title	経済学関係文献目録
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1954
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.47, No.2 (1954. 2) ,p.195(87)- 198(90)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19540201-0087

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

までもない。「資本家だけが法律の制定に當つてゐること、資本家のように、市民の法律をつくる以外に、我々は不幸のきずなから最後まで逃れ得ないことを忘れるな……」。我々は自分等の不幸なことを知つていて、……團結もせず、運動もしない」「やがて烈しい騒動が労働者の中から起るだらう……」。或る者は突然の職の取上げを、又或る者は賃銀の切下げを歎いた……」。皆が機械の恐るべき威力を呪つた……。「労働者が苦しくて騒いでゐるのに、資本家は勝利に酔つてゐる」。このような警句に刺戟されて、事實労働階級はいかなる手段に訴えても自己の立場を主張しようとした。そして早くも一八三四年にはリヨンの絹織工の大暴動があり、又その他の織物都市においても待遇改善を請つて労働者の動きが活潑になりつゝあつたのである。

かかる事態に對して二月王朝は無關心であつた。むしろ慈善家・經濟學者が労働者問題について非常な關心を寄せ、二月王朝下における工場労働者の實態を詳細に傳へる調査報告書をいくつか残してゐる。すなわち、Aperçu sur la condition des classes ouvrières et critique de l'ouvrage de M. Buret, Paris, 1844. Blanqui, "Des classes ouvrières en France pendant l'année 1848. Paris, 1848. Buret, "De la misère des classes laborieuses en Angleterre et en France. Paris, 1840, 2 vols. Ducpétiaux, "De la condition physique et morale des jeunes ouvriers et

des moyens de l'améliorer." Bruxelles, 1843, 2 vols. Kahan-Rabecq, "Les réponses harrises (Le Havre) à l'Enquête de l'Assemblée Nationale. La Révolution de 1848." 1884. Villeneuve-Bargemont, "Economie politique chrétienne." Paris, 1834, 3 vols. Villermé, "Tableau de l'état physique et moral des ouvriers employés dans les manufactures de coton, de laine et de soie." Paris 1840, 2 vols. 等であるが、なかでもヴィレルメとビュールの報告書が重要であつた。

リゴーディアス・ヴィニス女史も亦本書においてこの二つの報告書を取上げて詳細な説明を加えてゐる。女史は、ヴィレルメの報告書が児童雇傭を制限する法律の制定に役立つた點、又労働者の住宅問題について世論を喚起した點にその重大な影響を認めはするが、しかし女史によれば、ヴィレルメはあくまでも保守主義者であつたのであり、労働者の不幸を終始その不行為に歸してゐたことがその何よりの證據だといふのである。むしろ女史は、ビュールのなかに進歩的な要素を求めた。現にビュールは、貧困の原因を富の分配と労働の組織とに結びつけて考へてゐる。又貧困を解消するためには世界的な規模の闘争が必要であると強調した點、女史によれば、ビュールは正にマルクスの先驅者であつたのである。

(渡邊國廣)

經濟學關係文獻目錄

(昭和二十八年八月—十月)

- 理論 (學說史・經濟思想)**
- * 景氣變動論 波多野鼎著 B 6 二二八頁 二三〇圓
 - * 劍橋學派及び北歐學派の經濟變動理論 青山秀夫著 二二二頁 A 5 三五〇圓 ダイヤモンド社
 - * 經濟進步の諸條件 上 クラーク著 大川一司他譯稿 A 5 二九六頁 五六〇圓 勁草書房
 - * 經濟學入門 (創元文庫) ジイド著 泉俊雄・塚谷晃弘譯 A 6 一三四頁 六〇圓 創元社
 - * 平和と戰爭の經濟學 オートン著 堀江忠男譯 B 6 二二四頁 二五〇圓 新評論社
 - * 經濟原論 宮田喜代藏著 A 5 三三八頁 四三〇圓 同文館
 - * 經濟觀測 (文庫クセジュ) ソーヴィー著 松岡孝兒譯 B 6 小 一四四頁 一二〇圓 白水社
 - * 經濟學原理 (全訂) 高田保馬著 A 5 三九五頁 四〇〇圓 日本評論新社
 - * 經濟研究者の數學解析 上 アレン著 高木秀玄譯 B 6 三五二頁 四五〇圓 有斐閣
 - * ジョーソンの經濟學 (一橋大學經濟研究叢書) 著 A 5 二七一頁 三二〇圓 大野精三郎 岩波書店

經濟學關係文獻目錄

- * 恐慌論 宇野弘藏著 A 5 二二八頁 四〇〇圓 岩波書店
- * サムエルソン經濟學講義 下 川田壽著 A 5 二七四頁 三五〇圓 三和書房
- * 經濟政策原理 稻葉四郎著 A 5 二八六頁 三五〇圓 三和書房
- * 日本平和經濟の理論 日本労働組合總評議會編 B 6 一七五頁 一六〇圓 青木書店
- 統計・數學**
- * 統計學入門 佐藤輝實著 A 5 二二六頁 二七〇圓 評論社
- * 經濟研究者のための統計學 アレン著 大石泰彦・大澤豐譯 二五二頁 三〇〇圓 東洋經濟新報社
- * 日本農業の統計的分析 近藤康男編 A 5 三一九頁 五五〇圓 東洋經濟新報社
- * 經濟統計入門 有澤廣巳著 B 6 二九二頁 二八〇圓 ダイヤモンド社
- 財政・金融 (保險・證券)**
- * 財政學通論 中川與之助 A 5 一五七頁 二〇〇圓 法律文化社

八七 (一九五)

商工業・經營・會計

- * 資本蓄積と會社經營 A 5 三四八頁 四五〇圓 森山書店
- * 最新簿記提要 和田木松太郎著 A 5 二二六頁 三三〇圓 泉文堂
- * 會計學概論(增訂) 小高泰雄著 A 5 二二三頁 三三〇圓 泉文堂
- * 財務管理組織 古川榮一著 A 5 四七三頁 五五〇圓 森山書店
- * 商業概論(改訂) 小牧正道・加藤正雄著 A 5 二二二頁 三三〇圓 泉文堂
- * 經營學 田杉鏡編 A 5 一三四頁 一六〇圓 高文社
- * 配給通論 谷口吉彦著 A 5 三五五頁 四二〇圓 千倉書房
- * 現代會計學の課題 福田敬太郎編 A 5 一六九頁 二〇〇圓 森山書店
- * 會計學入門 吉田良三著 B 6 二二二頁 二二〇圓 千倉書房
- * 企業簿記通論 天野恭徳著 A 5 二二七頁 三〇〇圓 三和書房
- * 取引所論(經理・經營學新書) 田島四郎監修 B 40 一五〇頁 一〇〇圓 評論社
- * 現代商業の課題 福田敬太郎編 A 5 二二〇頁 二五〇圓 森山書店
- * 現代經營學の課題 福田敬太郎編 A 5 二六七頁 二八〇圓 森山書店

勞働・社會政策

- * 賃金の理論と實務 大河内一男他著 A 5 三九〇頁 四五〇圓 勞働法學研究所
- * 生活水準の測定(一橋大學經濟研究叢書) 大川一司著 A 5 二七一頁 三二〇圓 岩波書店
- * 資本主義の勝利 上・ハッカー著 中屋健一・三浦進譯 A 5 二五五頁 三八〇圓 東京大學出版會
- * 日本農作物病害防除史 卜藏梅之函著 A 5 三〇二頁 四七〇圓 産業圖書株式會社
- * ロシア・ソヴェト史 シュスタコフ著 荒川實藏譯 B 6 二四二頁 二五〇圓 岩崎書店
- * 明治初年農民騷擾錄 土屋喬雄・小野道雄編 A 5 六六五頁 八〇〇圓 勁草書房
- * 現代歴史學の新動向 増田四郎編 A 5 二八一頁 四〇〇圓 如水書房

世界經濟

- * ソ同盟共産黨小史 2(國民文庫) マルクス・レーニン主義研究所譯 A 6 三五五頁 一四〇圓 國民文庫社
- * 暴力なき革命 トイギリス勞働黨の歩み アプスハーゲン著 中原榮一譯 B 6 二五六頁 二五〇圓 同光社磯部書房
- * アメリカ獨占資本主義の形成(一橋大學經濟研究叢書) 小原敬士著 A 5 九九頁 一三〇圓 岩波書店
- * 經濟發展と外國貿易 北川一雄著 A 5 五一六頁 六八〇圓

國

- * 植民地從屬國の歴史1 園部四郎編 B 6 三二七頁 三二〇圓 三一書房
- * アメリカにおける資本主義 スタイン著 千種義人譯 B 40 三四六頁 一六〇圓 好學社
- * ソ連の世界政策(創元新書) B 40 一六三頁 一〇〇圓 創元社
- * ソ同盟共産黨の規約について 志村二郎著 B 6 六三頁 三〇圓 駿臺社
- * 中國の平和經濟 中國國際貿易促進委員會編 日中貿易促進會議譯 B 6 三三四頁 三〇〇圓 法政大學出版局
- * 新中國の農業理論 | 中國におけるミチューリン工作 | 赤津益造譯 B 6 一六八頁 一六〇圓 理論社
- * 中國農業の諸問題 下 天野元之助著 A 5 三一八頁 四〇〇圓 技報堂

社會學

- * 日本農業の社會學 田宮恭二著 A 5 二七九頁 四八〇圓 有斐閣
- * 社會調査の實際 三野亮著 B 6 二二九頁 二八〇圓 大學書房
- * 社會學の基礎 東京社會科學研究所編 A 5 三〇八頁 三〇〇圓 日本書院
- * 社會學の構造 武田良三著 A 5 三五二頁 四五〇圓 前野書店

社會思想

- * 現代の社會思想 氣賀健三著 A 5 二二四頁 三八〇圓 經濟學關係文獻目錄

金星堂

三一書房

社會思想研究會

國民文庫社

國民文庫社

青木書店

青木書店

青木書店

岩崎書店

岩崎書店

福武直譯

みず書房

一八八頁

三一書房

內山ひろし

理論社

大目書店

青木書店

- * イデオロギーとユートピア (創元新書) マンハイム著 樺俊雄譯 B 40 一四〇頁 一〇〇圓 創元社
- * ソ同盟における社會主義の經濟的諸問題 2 (知識文庫) コンスタンチノフ他著 知識文庫刊行會譯 B 6 小 一三八頁 八〇圓 岩崎書店
- * 中國革命の思想 (岩波新書) 竹内好他著 B 40 二二〇頁 一〇〇圓 岩波書店
- * 社會主義 (文庫クセジュ) プールジャン、ランベール著 船越章他譯 B 6 小 一三八頁 一〇〇圓 白水社
- * ソヴェト・コンミニズム 2 |新しい文明| ウェッパ夫妻著 木村定他譯 B 6 二九四頁 三〇〇圓 みすず書房
- * 第二インスタンショナルの崩壊他十六篇 (國民文庫) レーニン著 吉田弘譯 A 6 二七六頁 一一〇圓 國民文庫社
- * 辨證法的唯物論 山崎謙著 B 6 一八四頁 一五〇圓 新科學社
- * 北海道社會經濟圖譜 一九五三 地域經濟研究所編 B 6 四〇頁 三〇〇圓 石崎書店
- * 民族資本と勞農階級 (現代國民選書) 藤田敬三編 B 6 二八八頁 二五〇圓 創元社
- * 日本の財閥 1 (知識文庫) ハヴズネル著 橋本弘毅譯 B 6 小 一八七頁 九〇圓 岩崎書店
- * 日本の財閥 2 (知識文庫) ハヴズネル著 橋本弘毅譯 B 6 小 一六二頁 九〇圓 岩崎書店
- * 日本資本主義講座 1 堀江正規編 A 5 三九九頁 二八〇圓 岩波書店

經濟事情

辭書年鑑

- * 日本經濟の現状 日本經濟新聞社經濟解説部編 B 6 三四〇頁 三〇〇圓 同文館
- * 續日本經濟の構圖 板垣與一編 B 6 二七〇頁 二五〇圓 如水書房
- * 日本經濟四季報 2 (一九五三年第二期) 日本經濟調查會編 B 6 三二六頁 二五〇圓 大月書店
- * 勞働年鑑 一九五四年 社會文化研究所編 A 5 五三六頁 七五〇圓 社會文化研究所
- * 勞働經濟四季報 勞働經濟研究會編 B 6 三二六頁 二五〇圓 勞働經濟社
- * 世界經濟年報 11 (一九五三年 第二・四半期) 世界經濟研究所編 B 6 三〇二頁 二五〇圓 大月書店
- * 經濟白書 昭和二十八年 經濟審議廳編 三三三頁 二〇〇圓 經濟統計協會
- * 第四回統計年鑑 昭和二十七年 總理府統計局編 B 5 四七二頁 一八〇〇圓 毎日新聞社

編集後記

理論經濟學の性格を規定する際にそれを理論物理學と對比することが初歩の學生のみでなく専門家のあいだにも屢々みられる。現代の理論物理學者が紙と鉛筆だけで研究をすすめることができるのと同様に經濟學者も充分な資料の集積のうえに立つて、それを矛盾なく説明しようとする理論を構成すればよいというのがそれである。しかし乍ら經濟現象は人間の行爲であるから物理現象以上に我々によく知られていないという前提に立つた右の類推は途方もない誤りである。組織的な觀察、實驗の整理された資料に對して、漠然とした受動的な經驗の堆積が理論構成の素材として同程度の價值をもつ主張することはできない。強いて類推するならば一八七〇年代の價値論の確立はガリレイの力學對話に、エンゲルの發見はケプラーに先立つティヒヨブラーエの觀測に對應するもので、古典力學に對應するだけのものが經濟學にあるか否かさえ疑わしいといえよう。手よごさずにリンゴの落ちるのを見ただけで定差微分混合方程式によるエレガントな體系を組もうとする安易な考えからフィクショナルの氾濫とセオリーの貧困が生れ、(實驗計畫の樹て方を知らずむやみな實態調査から同義語反覆的な結論を出す行き方とともに)素人をして經濟學とは標語の羅列なるかのごとく錯覺させるに到るのである。社會が物理學者にサイクロトロンをあてがうのなら自分達にも電子計算器を要求する權利と義務があることを經濟學者一般が認識する日の早からんことを祈つてやまない。(辻村江太郎)

昭和二十九年一月二十五日印刷
昭和二十九年二月一日發行

第四十七卷 定價 七〇圓
第二號 送料 八圓
編輯者 氣賀健三
發行所 東京都港區芝三田慶大經濟學部
印刷所 圖書印刷株式會社
川口芳太郎

發行人 慶應義塾
發行者 慶應義塾
發行所 東京都港區芝三田二丁目
慶應義塾大學經濟學部研究室内
慶應義塾經濟學會